

2025年7月27日（日）

老球の細道 879号

なんちゃってミラクル

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

さすがに高校野球人気は凄い。夏の甲子園福島県大会で会津地区代表の「会津北嶺高校」がノーシードながら決勝進出を果たした。会津勢としては若松商業依頼40年ぶりの決勝進出で、勝てばミラクル「会津地区初の夏の甲子園出場」が起きることとなった。学校関係者だけではなく私のところまで市役所でのテレビ応援の依頼のメールが届いた。「バスケットボール命」を自称する私としては、家でテレビを観ながら優勝の行方を見守った。

昔から高校野球に関しては斜め目線で見ると癖がついてしまった。歴史を振り返ると、私が高校3年生の時（1971年）磐城高校が夏の甲子園県大会をノーシードで優勝し、そのまま全国大会も勢いに乗って準優勝を果たしたミラクルがあった。同じ頃私たち会津高校バスケット部は県総合体育大会（現県総合スポーツ大会）で優勝を果たした。私としてはバスケットキャリアの中で初の県大会優勝だったので、意気揚々と会津若松に帰ってきた。しかし、周囲は磐城高校の話題ばかりで私たちの優勝は地元の会津では話題にも上らなかった。

また1998年会津高校に勤務していた時である。夏休みに初のアメリカ遠征を計画したら、多くの教員から「夏休みの補習を休んで米国遠征などけしからん」と大反対のブーイングが上がった。しかし、貴重な経験なので反対を押し切って米国遠征を実施した。その翌年、会津高校野球部が夏の県大会でベスト4まで快進撃をした。準決勝は地元会津球場、折しも学校は夏の補習期間であった。「補習は授業の一環であり、個人の事情で欠席することは許されない」と豪語していた先生たちが、今度は意を翻して「母校の甲子園出場がかかる重要な大会である。補習を休みにして全校応援をすべきである」と大きな声を上げた。応援をより補習を受けたい生徒もいただろうに、話は「補習休み。全校応援」と決定した。「甲子園へ！」という強烈な勢いに反対する意見は出なかった。

そんな過去の悔しさを思い出しながらも会津北嶺のミラクルを期待して試合を観戦した。北嶺が5回に3点をあげて3対1とリードした時に「よもや会津から甲子園！バスケットはどうする！」と胸が高鳴った。ちょうどその時我が家でも小さなミラクルが起きた。2週間前に亀隠し（神隠し）にあって行方不明になっていた我が家の亀が孫の机下でもそもそ動いていたのを孫娘が発見し、仕事休みで家にいた筋肉マンの息子が素手で捕獲した。2週間亀は飲まず食わず生き続けていたようである。しかしやせてはいなかった。さすが長生きの亀である。あれほど家の中をくまなく探したのに見過ごしがあったとは。

隣の部屋で亀のミラクル発見で大騒ぎしていた時、テレビでは6回聖光学園の猛攻で6点を取られ、その後さらに2点を追加され、会津北嶺のミラクルも夢幻と終わった。

バスケットの人気も上昇してきたが高校野球人気にはまだ及ばない。井上陽水の歌に「夢の中へ🎵」がある。「探し物は何ですか・・・探したけれど見つからない・・・探すのをやめた時よく見つかる（亀）・・・」。全国への夢は夢の中まで探し続けなければならない。